



報 公 会

一般社団法人 人間力認定協会

理解は支援の第一歩！

支援の輪を拡げよう！

発達障害研究チームの発足！

実践的な知見を集積し一般公開します

いつも当協会の理念に賛同し、ご支援いただいている皆様に感謝申し上げます。お陰様で累計受講者数は四万七千名を超え、新たに大学での導入も決定するなど、支援の輪は着実な広がりを見せております。

しかし、支援の手が全ての子どもたちおよび保護者に届いているかと言われると決してそうではありません。周囲からの理解を得られずに、苦しんでいる方は多くいます。そこで当協会では、発達支援の現場における実態を可視化し、実践的な知見を集積・公開することを目的とした研究チームを発足いたしました。皆様から寄せられる数々の貴重な体験談を分析し、当協会

のWEBサイトで公開します。調査報告書は、保護者や支援士の皆様だけでなく、大学などの教育機関、各種メディアでも広くご活用いただけます。本取組が、より良い支援環境を構築する一助となることを心より願っております。

この研究チームは現在、協会スタッフで構成しておりますが、将来的には受講者の皆様や医師、大学教授といった専門家の方々にもご参画いただく計画です。募集の際には改めてご案内いたしますので、ご興味をお持ちの方はぜひご検討ください。「理解は支援の第一歩」を合言葉に、共に支援の輪を拡げていきましょう。

理事長コラム

いつも当協会の活動に温かなご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

子どもたちは一人ひとりが豊かな個性を持ち、その輝きは日々の暮らしの中に溢れています。今号では、支援の実態を見つめ直す研究チームの発足、新しい教材の刊行、そして子どもたちの「大好き」を表現する絵画コンクールについてご案内いたしました。いずれも目指すのは、子どもたちが安心して自分らしさを発揮できる社会です。そのような社会が実現すれば、当事者の保護者の皆さまの不安も和らぎ、より安心して子育てに向き合えることでしょう。

私たち大人が「理解」という最初の一步を踏み出すことで、未来は必ず広がっていきます。これからも皆様と共に支援の輪を育み、希望に満ちた社会を築いてまいりましょう。

一般社団法人 人間力認定協会
代表理事 井上智之



児童発達支援士・発達障害コミュニケーションサポーター SSTスペシャリスト 第2版教材リリース



理事長ブログ 第2版の変更点まとめ
<https://ninkyou.jp/blog/?p=3087>

最新版にリニューアル

この度当協会が認定する「児童発達支援士」「発達障害コミュニケーションサポーター」「SSTスペシャリスト」の公式テキストを改訂し、第二版を二〇二五年四月より刊行いたしました。今回の改訂における重要なポイントを二点お伝えします。

一つ目は、医学的根拠のアップデートです。発達障害理解の基盤となる診断基準を、従来の「DSM-5」から最新の「DSM-5-TR」(2022年刊行)へと移行しました。診断基準や診断名に一部変更がありますが、根本的な考え方に大きな変更はございませんので、これまで学ばれた知識も引き続き有効です。

二つ目は、現代社会を映す最新データの反映です。コロナ禍という未曾有の事

態を経て、子どもたちの心や生活には深刻な影響が及んでいます。今回の改訂では、いじめや不登校などの統計を最新化し、「今、目の前の子どもたちに何が起きているのか」をリアルに捉えられるようにしました。これは、支援者として次の一手を考える上で、不可欠な情報となるはずです。

発達障害の分野は日々研究が進み、支援の根拠となるエビデンスは絶えず更新されています。それだけでなく、社会状況も変化し続けています。そのため、常に最新の情報を提供できるように、今後も定期的に教材の改訂を続けていく所存です。

発達の多様性を応援する作品展 第一回 絵画コンクール開催

＜すでに応募いただいた作品の一部をご紹介します＞



第一回 絵画コンクール

当協会の新しい取り組みとして、「発達の多様性を応援する絵画コンクール」を開催することとなりました。

本コンクールの目的は二つあります。一つは、一人ひとりが持つ豊かな個性や表現力を発表する場を創出し、「できた!」という成就感体験を通じて自己肯定感を育むことです。もう一つは、保護者や支援者の皆様がその作品を通して、その子の内なる世界や秘めた可能性に触れ、改めて深く向き合い、その素晴らしさを見つめ直すきっかけにしたいということです。

今回の募集テーマは「ぼく、わたしのだ〜い好き!」です。大好きな家族や友達の顔、夢中になっっているおもちゃや乗り物、心安らぐお気に入りの場所、想像の

中にいる不思議な生き物など。子どもたちの「だ〜い好き!」というポジティブなエネルギーが詰まった作品は、見る人すべてを幸せな気持ちにしてくれるはずです。

「何を描く?」とお子様と話す時間そのものが、素晴らしいコミュニケーションの機会にもなります。ぜひ、お子様の「好き」の世界と一緒に覗いてみてください。上手に描こうとする必要はありません。お子様の感性のまま描かせてあげましょう。

作品の展示開始は二〇二五年一〇月一日を予定しています。展示サイトのURLは協会公式サイトや受講者専用LINEにてお伝えします。皆様の「だ〜い好き!」が詰まった、心温まる作品に出会えることを、スタッフ一同、心より楽しみにしております。

拡がる認定支援士の輪

新たにご登録いただいた認定支援士のご紹介

(2025.3.1 ~ 2025.8.31 ご登録者)

個人情報保護のため、ぼかしを入れています

認定支援士より頂いたメッセージをご紹介します

(全員のメッセージを紹介しきれないため、今回は一部の支援士のみご紹介します)

東
エリ
ア

児童発達支援ソフィア+
森田 恵さん

―資格取得のきっかけは？

保育所併設型児童発達支援を二〇二四年十月に立ち上げ、二〇二五年一月に、児童発達支援管理責任者の基礎研修を修了し、サブ児童発達支援管理責任者を月から千葉県に登録したため。

―知識を習得して変化は？

一人ひとりの特性がよく見えるようになった。

―悩んでいる方に助言は？

とにかく子どもさんに寄り添うことが大切だと思います。

―支援で大切なことは？

障がいと見ないで、特性や個性として、児童を観察することが、大切だと思います。

東
エリ
ア

団体名なし
新田 祥子さん

―資格取得のきっかけは？

児発管の資格をとり、今後更なる子供達の支援に力を入れていきたいかったため。

―知識を習得して変化は？

その子にとって、何が最適な支援方法なのか、その子にとってどんな支援が良いのかを、よく観察し、よく考えるようになった。

―支援で大切なことは？

その子のことをよく見て観察すること。表情からでもわかるようになってくるので。自分は味方だよ、という思いが伝わるように接していくこと。本気で向き合った分だけ信頼してもらえようになるから。

東北
エリア

団体名なし
佐藤真由美さん

―支援をして辛かった事は？
ADHDの息子がまだ診断される前に、衝動性が強く、何度も車道へ飛び出して、事故に遭いそうになっていった時。親が注意したり怒りすぎて、日に日に目つきが悪くなっていた時。

―知識を習得して変化は？
まだまだ少しだけけれど、子供を理解できてきて対応できるようになった。優しくなれて、自分に余裕が出来てきた。怒られることばかりして、わざとやっているんだと疑心暗鬼になっていたけど、対応が変われば子も変わってきた。今はすごくかわいいと思うし、面白いとさえ思う。愛しい。

東海
エリア

おのぎ株式会社
バスケット訪問看護ステーション
野々垣秀幸さん

―資格取得のきっかけは？
病院での勤務から訪問看護ステーションでの勤務に変わったことがきっかけで、発達障害の方の支援をする機会が増えました。その際にどの様に支援をしていけば、次障害を予防でき、生きづらさの軽減に繋がるのかを考えると自信を持つて援助する事が出来ませんでした。そこで何か自己学習をしようと思った際に興味を持ちました。

―支援で大切なことは？
発達障害についてよく知ること、興味を持つこと、そしてパーソンセンタードケアの様に一人の人であり個性であると認識する事で信頼関係が構築でき、継続的な支援が出来るようになっていきます。

東
エリア

団体名なし
丸山あけみさん

―支援をして辛かった事は？
医師による診断が早く療育につながるのには早かったのですが、就学前の支援体制は整いやすかった。本人もそれなりに適応できていたが小学校入学してからは「支援環境が整ったうえで適応できる」ということを担任に理解や支援・配慮をしてもらうのにも苦労しています。

―知識を習得して変化は？
つい特性を抑えることに注目してしまいが、それより以前にやるべきであったと気づけたこと。

～アンケートのご協力依頼～

療育エピソードを募集しています

皆様がこれまでに経験してきたことは、これから経験する方にとって財産となります。当協会では療育エピソードとして体験談を募集し、受講者の皆様に共有しています。体験談が多ければ多いほど救われる方は増えます。ご協力願下さい！

●特に募集中のエピソード●

- ・カサンドラ症候群に関するエピソード
- ・子どもの二次障害に関するエピソード
- ・子どもに発達障害であることをどう伝えたか
- ・アンガーマネジメントに関するエピソード
- ・感覚過敏/鈍麻に関するエピソード



療育エピソードサイト

<https://ninkyu.jp/member>

(協会 LINE から簡単にアクセス可)